

【両耳間通信】

この機能は補聴器を両耳装用している時に、左右の補聴器が音環境について情報交換しながら自動的に調整内容を改編することです。例えば、片方で認知した騒音を情報交換で反対側に伝え、即座に両側同時に騒音抑制を働かせるようなことが出来ますし、逆に風切り音等、片側にしか発生しない場合は、片側だけの抑制に抑えとかの対応が出来ます。さらに、最近では、音空間全体にある音声や騒音の方向性及び距離感を分析することにも使われるようになりました。各補聴器メーカーがデジタルプラットフォームの高性能化に取り組んでいることが可能になった理由です。【両耳間通信】による音空間の分析は、360度音空間認識機能と密接に絡んでいますので重要度が増しています。補聴器の性能を比較するときに、この機能が搭載されているかどうか確認するのも良いのではないのでしょうか？